

1. 担任が始まる前の事務的な仕事

- ・クラス名簿配布（氏名等確認）、特別配慮が必要な生徒のチェック（生徒指導上、給食、対人関係等）
- ・教室環境や下足箱、ロッカー、机（座席）の配置と破損状況等の確認。
- ・時間割、移動教室、清掃当番、クラス役員決めの段取り、年度当初予定や行事の確認
各教科からの諸連絡（実技教科、副教材確認など）、学級通信、所信表明
- ・PTA 役員選出、クラス連絡網（緊急電話、メール配信等）
（・春のクラス別遠足計画（バスや各種予約））

2. 教科が始まる前の事務的な仕事

前年度にやっておくこと

- ・教科書や副教材決定
- ・教科予算（備品、消耗品）の策定
- ・シラバス（生徒向け）、年間指導計画（教務部提出）の作成（前年度）
最初の授業の直前にやっておくこと
- ・履修者名簿の受け取り 教務手帳づくり 座席決定（特別教室）
- ・学期のクラス別の授業数や進度確認、テスト範囲などを他の教員と調整
- ・授業アンケート（必要な場合のみ。自己紹介、授業の要望、スキルチェック）

3. 昨今の生徒の傾向（福島の主観も入っています）

- ・今も昔も変わらない学校生活に対する“期待”と“不安”
- ・教員や仲間のふるまいにセンシティブ
特に女子は先生の好き嫌いで教科の好き嫌いが決まる傾向
- ・権威や上から目線に対する嫌悪（部活指導などは除く）
- ・友人とのコミュニケーション傾向は・・・
本音は言えない 空気読む（読みすぎ） 他人からの評価気にしすぎ
グループの固定化 リーダー不在（生徒会、部活動）
- ・全般的に草食化 平和志向 ナーバス
ちょっとした教員からの叱責や本人の挫折が尾を引く場合も多い。
- ・良くも悪くも2極化（学力、行動（大人/幼児）、意識、能動/受動）
- ・デジタルネイティブ（スマホ世代、LINE・モバゲー）

クラス経営に関しての福島の私見

担任を持つにしても持たないにしても、学校教育における活動中心は授業であると思う。よって授業を大切に生徒にとって実りあるものにできていれば先生への信頼は高まりコミュニケーションもうまくいく。

意外と盲点なのは、勢いや印象は良くても（熱血とか指導熱心とか・・・）、事務的なことができていない（生徒への連絡が抜けている、書類ミスが多い、クラスでの回収率が低い）と、そうしたところから生徒の心が離れたり、クラス全体の雰囲気も悪いものになったりする。絶対にミスをしてはいけないということではなく、最低限の常識内の事務的能力は問われる。特に大学受験ともなると将来がかかっているので注意が必要である。教育困難校に対応については「窓割れ理論」について知っておく必要がある。

いままで見てきた中で、クラス経営が上手だった先生の要素は

- ①生徒の自立を考え、生徒の質問に対してすぐ答えるのではなく、生徒自身に考えさせる。「あなたはと思う？ みんなはどう考えているんだろう？」という問いかけ。
生徒自身によるルールづくり、企画づくり “気づきを待つ姿勢”や忍耐
- ②ちょっとした生徒の表情の変化なども読み取り、くどくない程度の積極的な声かけする。
冗談やユーモアがあるとさらに良い関係性が築ける。さりげないコミュニケーション。
- ③きちんと自分哲学を持っている、自分を正直に生徒に語れる。本気度が伝わる。
評論家ではなく、体験談を持っていて体験を語れる先生。 not サラリーマン教師

昨今の生徒指導で難しさを感じる点は、生徒が繊細でナーバスなこと、コミュニケーションの苦手意識である。表面上はメールやLINEでつながっていても、本当の繋がりを感じられる友人が周囲にいなかったり、家庭や進路の悩みが深刻になりがち。「失敗してもいいや。とりあえず挑戦してみよう。」というマインドや、「これってどうなっているんだろう？徹底的に調べてみるか」という挑戦的なマインドも減っていることも気になる。基本的な人間関係や葛藤を幼いうちに学ぶ機会がないまま大人になっているケースが多く、これらのリカバーは大きな課題である。

一方で、環境保全や皆で助け合っていくこと、つながりなどには関心が高くデジタル機器の操作も当然得意であったり、いったんコツを飲み込めば適応性があったり、ぐっと成長できる生徒も少なくない。

悩みの質も多様で深かったり、パターン化されていないため、担任ひとりで抱えきれないことも多い。一人ですべてやろうとせず、経験を積んだベテランや養護教諭、スクールカウンセラーや進路指導の先輩に積極的にたずねてみることをお勧めしたい。